

留学を終えて

恵那高等学校 安江 史笑 (アメリカ合衆国)

「帰りたくない」と思えるような留学にすることが、私の目標でした。最初の三か月間は友達もなかなかできず、学校の授業にもついていけず、このままで大丈夫かと、本当に不安でいっぱいでした。英語もすごく話せたわけではなかったので、友達やホストファミリーと会話を続けることにもとても苦労しました。しかし、学校の先生は、私のために日本語に翻訳したプリントを印刷してくださったり、ヒントをくださったりしました。ホストファミリーも、私に話す機会をたくさんくれたり、誤っている発音があったら、私が正しく発音できるまで何度も何度も教えてくれたりしました。友達も授業でわからないところがあったら、ノートを見せてくれたり、わかりやすい英語に直して、説明してくれたりしました。そして何とか最初の三か月間を乗り越えることができました。それからの七か月間はほんとに濃厚で、学びの多い期間でした。そして帰国日、私は「帰りたくない、もう少しここに居たい」と心の底から思いました。そして、家族に「楽しかったよ。」と胸を張って言えたことが何よりも嬉しかったです。

このように、山あり谷ありの留学から、私が学んだことは二つあります。一つ目は自分自身を大切にすることの重要性です。私はもともと周りのことばかりを気にしてしまう性格でした。日本には、このような性格の人が多いのではないかと思います。一方でアメリカの人々は自分自身のことをとても大切にしていることに、実際に現地で生活する中で気が付きました。そしてその文化がとても魅力的だなと感じました。例えば、誰かを遊びに誘ったとき、日本人はなるべく断らないようにしたり、相手が傷つかないような理由で断ったりすることが多いと思います。しかしアメリカの人は「疲れた」という理由で断ることがよくあります。そして断られた相手もそれに対して、傷つくことも少ないように感じました。最初はその文化に驚きましたが、日本にはない文化で、魅力的だなと思いました。自分自身のことを大切にすることは当たり前できているようで、できていないことだと気づかされました。私もまず自分自身のことを大事にし、周りへの配慮や思いやりを大切にしたいなと思いました。

二つ目は、宗教の興味深さです。みなさんは自分がどの宗教に属しているか知っていますか。また、宗教についてどんなイメージがありますか。私は留学する前は、自分がどの宗教に属しているのかも曖昧でした。また、宗教に対してどこか怖いイメージがありました。しかし、アメリカ留学を通して、宗教の魅力に気付くことができました。アメリカは日本と比べ、宗教の信仰が強い人が多いです。私のホストファミリーはキリスト教のカトリックを信仰していて、毎週日曜日に教会に行っていました。教会に実際に行き、カトリックについて知ることや、教会に来ている人々と交流することで、人々の温かさや教会が行っているボランティア活動の存在などを知ることができました。そして宗教に対して怖いという感情が無くなっただけでなく、カトリックを信仰している人々の考え方に魅力を感じるようにな

りました。また宗教がアメリカの人々にどのような影響を与えているのかをもっと知りたいと思うようになりました。

アメリカ留学は私の価値観を多方面で変えてくれました。留学を支援してくださった人々への感謝の気持ちを忘れずに、今後も頑張っていきたいです。

